

京都大学	博士 (人間健康科学)	氏名	田村 葉子
論文題目	Development and Effectiveness of an End-of-Life Care Program for Faculty in the Critical Care Field : A Randomized Controlled Trial (クリティカルケア領域の指導者層を対象としたエンド・オブ・ライフケアプログラムの開発と効果 : ランダム化比較試験)		
(論文内容の要旨)			
<p>【背景】 高年齢多死社会の中、エンド・オブ・ライフ (EOL) ケアは、ホスピスや緩和ケア病棟のみならず、集中治療室などのクリティカルケア領域においても重要性が高まっている。しかし、日本において、クリティカルケア領域の EOL (以下、CC-EOL) ケア教育についての系統的で包括的な教材はなく、クリティカルケア領域で勤務する看護師は EOL ケアに対するジレンマや困難感を抱えている。そこで、CC-EOL ケア教育の普及を促進するために CC-EOL ケア教材を作成し、指導者層を対象とした CC-EOL ケアプログラム (以下、プログラム) を開発した。本研究の目的は、プログラム終了 6 か月後において、プログラム受講者の CC-EOL ケア教育に対する自信が継続しているかどうかを評価することである。</p> <p>【方法】 米国の End-of-Life Nursing Education Consortium (ELNEC) が開発した系統的で包括的な教材である「ELNEC-Critical Care」と、既に日本で開発されている「ELNEC-Japan Core カリキュラム」を基に CC-EOL ケア教材を作成した。この教材の活用方法や教授方法を含めたプログラムを開発し、その効果を検証するために、ランダム化比較試験を実施した。対象はクリティカルケア領域で勤務する 5 年目以上の看護師と大学教員の 90 名とした。評価指標として、End-of-Life Nursing Education Questionnaire (ELNEQ) を用いた。ELNEQ は「教育への自信」「教育への意欲」「教育の方法」「質の高い EOL ケアの達成への意欲」「教育の参加者への影響」の 5 つの下位尺度で構成される。プログラム終了 6 か月後の「教育への自信」を主要評価項目とし、それ以外の下位尺度を副次評価項目とした。プログラム終了直後、3 か月後、6 か月後 (以下、各期) における 2 群間の各下位尺度の平均値差については t 検定を行った。また、各期の各下位尺度の平均値を従属変数、プログラム介入の有無を独立変数、年齢、性別、EOL 教育経験の有無、各下位尺度のベースライン平均値を共変量とした共分散分析を行った。有意水準は両側 5%未満とした。</p> <p>【結果】 研究参加登録された 90 名を層別無作為割付により、プログラムを受講する介入群 (n=44) と受講しない対照群 (n=46) に分けた。参加辞退者や調査票未返信者などを除いた、介入群 37 名 (84.1%)、対照群 39 名 (84.8%) を解析した。プログラム終了 6 か月後の「教育への自信」(主要評価項目) の平均値は、介入群の方が対照群と比較して有意に高かった (介入群 2.5±0.69、対照群 1.8±0.46、p<.001)。また、副次評価項目であるプログラム終了 6 か月後の「教育の方法」、「質の高い EOL ケアの達成への意欲」、「教育の参加者への影響」</p>			

の平均値についても、介入群の方が有意に高かった。しかし、「教育への意欲」の平均値は、2 群間に有意差はなかった。共分散分析の結果、各期における下位尺度の平均値は、年齢、性別、EOL 教育経験の有無、各下位尺度のベースライン平均値を調整しても、「教育への意欲」を除く全ての下位尺度で介入群の方が対照群と比較して有意に高かった。

【結論】

本研究は、ランダム化比較試験にて、介入群はプログラム終了 6 か月後においても CC-EOL ケア教育に対する自信が継続することを明らかにした。このことから、このプログラムを受講した指導者層は、臨床や教育の場で CC-EOL ケア教育を実践することが期待でき、CC-EOL ケアの質向上に貢献できる可能性がある。

(論文審査の結果の要旨)

集中治療室などのクリティカルケア領域におけるエンド・オブ・ライフ (EOL) ケアの重要性が高まっているが、それを担う看護師はジレンマや困難感を抱えており、クリティカルケア領域におけるエンド・オブ・ライフ (以下、CC-EOL) ケア教育の必要性がある。そこで申請者は、系統的で包括的な教材を作成し、CC-EOL ケア教育の普及を促進するために指導者層を対象とした CC-EOL ケアプログラム (以下、プログラム) を開発した。本論文は、プログラム終了 6 か月後において、プログラム受講者の CC-EOL ケア教育に対する自信が継続しているかどうかをランダム化比較試験にて検証したものである。結果、プログラム終了 6 か月後の「教育への自信」の平均値は、介入群の方が対照群と比較して有意に高く、また、年齢、性別、EOL 教育経験の有無、教育への自信のベースライン平均値を調整しても、介入群の方が対照群と比較して有意に高かった。6 か月後においても自信が継続していたことから、このプログラムを受講した指導者層は、臨床や教育の場で CC-EOL ケア教育を実践することが期待でき、CC-EOL ケアの質向上に貢献できる可能性が示唆された。

以上の研究は、CC-EOL ケア領域の指導者層を対象とした CC-EOL ケア教材の活用方法や教授方法を含めたプログラムであり、CC-EOL ケア教育の普及促進ならびに CC-EOL ケアの質向上に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士 (人間健康科学) の学位論文として価値あるものと認める。なお、本学位授与申請者は、2024 年 1 月 25 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降